

「ミンダナオ島ダバオ市とルソン島マニラ市と周辺の肢体不自由児支援施設に合計160台の中古車椅子を寄贈しました」

平成25年11月

フィリピンへの第4回目となる本年度の寄贈は2都市に80台ずつ実施しました。これで同国への寄贈は累計441台になりましたが、それにより同国の肢体不自由児とその家族の生活の改善に少なからず寄与できたことは幸いです。当会からの現地訪問は、寄贈確認と日常管理の徹底という2つの目的を帯びました。

まず、11月15日にミンダナオ島の首都ダバオ市で6施設向けに寄贈しました。400年に及ぶ宗教戦争で身体障害者の多いと言われるミンダナオ島での寄贈を初めて行いました。引渡し式は同国でのパートナーであるJVR財団の傘下の大手家電小売店本社の社屋で、肢体不自由児10名と保護者、施設代表者と職員、同島の比国福祉開発省幹部、メディアなど100名以上の出席を得て行われました。



大型家電小売店ショールームを会場として引渡し式が営まれました



引渡し会場で試乗する児童を見守る
母親と施設代表者たち



受け取る車椅子を選定する施設代表者たち

軽量と多様な構造の日本製車椅子には高い評価が寄せられ、2回目以降の寄贈を強く要望されました。

その引渡し式の直後に施設代表者と職員に集まっていただき、車輪への空気の補充を中心とする日常管理についてセミナーを行い、長期間の使用を期しました。



車輪に空気を補充する方法の説明に聞き入る施設代表者たち

そして翌日（16日）と翌々日（17日）には寄贈先施設を訪問して、寄贈された車椅子に乗って新たな生活を始めた児童の生活振りを確認しました。



小児癌病院附属施設「希望の家」で
寄贈した車椅子に乗る児童と職員たち

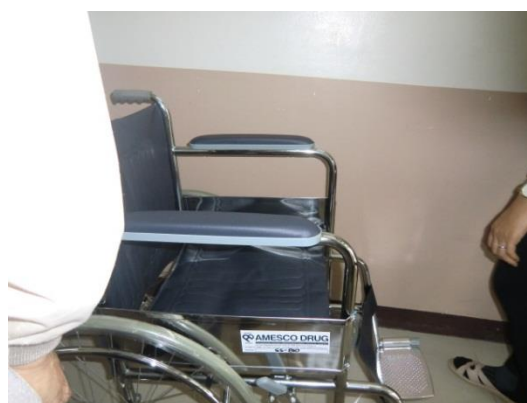


マザーテレサ系の児童養護施設で
車椅子に乗る児童たち

同じ日、ダバオ市内の自転車店を訪問して、空気入れとタイヤとチューブなどの修理部品の入手の可能性と価格を調べました。同国では、車椅子が医療用具として薬局で売られているのが普通であることを知りました。



ダバオ市の自転車店で補修部品を調査



販売する薬局のラベルが貼られた車椅子

翌週、マニラ市では、車椅子の寄贈に先立って、過去3回の寄贈先施設のすべ

てを訪問し、使用されている車椅子の現状を確認すると共に、車輪への空気の補充や故障への対応について実地訓練を含めて職員の理解に徹底を図りました。



Elsie Gaches Village を訪問し寄贈済み車椅子を点検し、空気入れの方法を助言しました



マザーテレサ系養護施設での聞き取り風景



Chosen Children 施設で空気入れの助言



CBR を訪問し使用状況を確認しました

本年度のマニラでの寄贈は6施設に対して合計80台。引渡し式は11月20日に、

肢体不自由児 10 数名と保護者、在フィリピン日本国大使館員、比国福祉開発省福祉局幹部、メディアなど、そこでも 100 名以上の来場を得て行いました。



寄贈先の各施設と覚書を交換しました



車椅子に乗る子ども達と両親との記念写真



寄贈先施設からは 20 人の肢体不自由児と両親が引渡し式に出席されました



80 台の車椅子の種類は多岐に亙りました。



室内専用の座位保持用車椅子もありました



加えて、写真のような下肢装具 40 組がすべて施設に引き取られました。

以上